

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

大学院学生研究

2018年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			文学研究科	ドイツ文学専攻
研究代表者 (2019年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年・学生番号		氏名		
	博士後期課程・4年・15PI001D		馬場 大介 印		
指導教員	所属・職名		氏名		
	文学部・教授		前田 良三 印		
自然・人文 ・社会の別	自然	人文	社会	個人・共同の別	個人
個人・共同の別	個人				
研究課題	カール・フローレンツ『日本文学史』の複合学問文化史研究				
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2019年3月現 在のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名		
	文学研究科・ドイツ文学専攻・ 博士課程後期課程・4年		馬場大介(研究代表者)		
研究期間	2018 年度				
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 199,908円 / (採択金額) 200,000円				

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、明治時代に来日したドイツ人カール・フローレンツが執筆したドイツ語の『日本文学史』を対象としている。この文学史を、当時の国文学者から伝えられた日本文学の知識と19世紀のドイツ文学史の記述方法が、フローレンツによって組み合わせられた著作として検討している。その際に、この文学史へと流れ込んでいる日独の学問的伝統のコンテクストを裏付けることによって、フローレンツがどのような状況に置かれ、どのような判断に基づいて日本文学史を記述したのかを明らかにしている。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[日独] [学術文化接触] [学問史]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の成果は、4点挙げられる。第1に、2018年11月に立教大学において、博士学位請求論文『近代日本文学史記述のひとつの複合的起源－カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触』を提出した。この論文の審査に合格し、2019年3月に博士号を取得した。本資金によって、主として研究に必要な書籍を購入したが、そのおかげで論文の執筆作業を円滑に進めることができた。

第2に、これを踏まえた成果の一部について、2019年2月16日に立教大学で行われたワークショップ「日独近代化における〈国民文化〉と宗教性」において口頭発表を行った。タイトルは「近代日本文学史記述における日独学術文化の複合性－カール・フローレンツ『日本文学史』における神道史の不在」である。

第3に、小論稿「カール・フローレンツの日本文学研究の状況」が、2019年3月発行の立教大学大学院ドイツ文学専攻論文集『WORT』第40号に掲載されている。

第4に、2019年3月21日に日本独文学会が主催する「ドイツ文化ゼミナール」において、ドイツ語で口頭発表を行った。この発表内容をもとにしたドイツ語論文は、2019年12月までにインターネット上で公開されることが決定している。

研究成果の概要 つづき

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて提出してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

1. 馬場大介『近代日本文学史記述におけるひとつの複合的起源－カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触』, 立教大学博士 (文学) 学位請求論文 (未刊行), 2018 年 (提出), 全 154 頁
2. 馬場大介「カール・フローレンツの日本文学研究の状況」, 立教大学大学院ドイツ文学専攻論文集『WORT』, 第 40 号, 2019 年, 13-22 頁

④ その他 (学会発表)

1. 馬場大介「近代日本文学史記述における日独学術文化の複合性－カール・フローレンツ『日本文学史』における神道史の不在」, 国際共同研究加速基金 (国際研究強化 (B)) 「日独近代化における〈国民文化〉と宗教性－学際的・国際的共同研究基盤の強化」第 1 回ワークショップ, 立教大学池袋キャンパス, 2019 年 2 月 16 日
2. Daisuke Baba: „Fremdartige“ Literatur in der „gewöhnlichen“ Literaturgeschichte. Karl Florenz' *Geschichte der japanischen Litteratur* aus wissenschaftsgeschichtlicher Perspektive (邦題: 馬場大介「〈慣れ親しんだ〉文学史記述における〈異質な〉文学－カール・フローレンツ『日本文学史』を学問史的に考察する」), 日本独文学会主催第 61 回ドイツ文化ゼミナール, リゾートホテル蓼科 (長野), 2019 年 3 月 21 日